

神戸大学大学院

准教授 北野 幸子

「舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議 会長」

「乳幼児教育の質の向上研修 全体及び子どもを主体とした保育 講師」

※子どもを主体とした保育(プロジェクト型保育)

- ・遊びや生活、身近な自然の中で、子どもたちが興味や関心を抱いていることからピックスを見つけ出し、調べたり、深めたりしてさまざまな活動に発展させる。
- ・子どもたちの主体的な活動を支援するため、保育者が、子どもの興味や発見、疑問を見つけ出し、さまざまな活動へ発展させる力や、遊びたくなる環境づくりをするための手法を学ぶ。

※ドキュメンテーション

- ・子どもの姿やことばを記録し、保育者の意図や考察を加えて、園での遊びや生活の中で子どもたちがどのように育ち、何を学んでいるかを可視化する手法。
- ・保護者や第三者への発信、子ども同士の遊びをつなぐ、保育者の振り返りによる研修や保育の展開に活用できる。

鳴門教育大学大学院

教授 木下 光二

「乳幼児教育の質の向上研修保幼小(中)連携 講師」

保育所や幼稚園と小学校・中学校の連携を深め、子どもの育ちや学びをつなぐ。

連携協力校・園での生活科の連携活動の実践交流を中心として、保育所・幼稚園と小学校とのお互いの理解を深めながら、それぞれの「ねらい」を持った連携活動の充実を図る。

兵庫教育大学大学院

教授 溝邊 和成

「舞鶴市乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議 副会長」

「舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議 会長」

舞鶴市乳幼児教育ビジョン基本方針「2保育所・幼稚園、小学校、中学校の連携の充実」「(2)乳幼児期の学びと育ちをつなぐ連携活動の充実」において、保育所・幼稚園の年長児と小学校の1年生が1年を通じて連携活動ができるように取り組むため、各園・校において、年間計画やカリキュラムを作成することとしており、この作成に向け、関係者から幅広い意見を聴くための会議。保育所・幼稚園の年長児から小学校1年生の2年間を通じて、育ってほしい力を保育所・幼稚園と学校が意識し、互いに考え学び合いながら、1年を通じて連携活動が展開できるよう、「舞鶴版保幼小接続カリキュラム」を作成する。

## 神戸大学大学院 准教授 北野 幸子

舞鶴市とかかわらせていただいて6年がたった。その少し前に、熱心に何度も舞鶴市から訪問があったことを懐かしく思う。当時、新制度導入前で、保育関係者の多くが、変化を恐れる気持ちと、現状維持を危惧する気持ちとのほざまで、揺れておられたように思う。保育の「質」が今日議論となっているが、舞鶴市との研修開発研究は、最初から、保育の「質」がテーマであった。待機児童のいない地方であるからこそ、新しい制度の中で、保育の質の維持・向上こそを図ることを志した。

すでに、何度も確認したことであるが、この6年間、①保育の価値を確認し前提とすること、②公開保育を行う研修とすること、③保育の可視化を目指すこと、④セクトの壁を取り除くこと、⑤受動的ではなく能動的な研修を目指すことを目指してきた。とても人前で話しが上手いわけではない私だが、毎年年度初めに、舞鶴市の先生方と確認することを目標として、講話させていただく機会を得た。

保育の実践の質の基準は、多くの文献資料を参考としつつも、他者に監査されたり、指示されたり、与えられたりするものではなく、地域において、保育の公開、振り返り、対話こそによって、自分たちで自覚し、確認し、納得解を生成していくものといった思いから、公開保育、事後検討会、ドキュメンテーションなどを活用した研修を開発することができた。

多くの先生方がこの6年間で、保育の可視化、言語化、ドキュメンテーションの作成が得意になられたと自負を感じてくださっているとの声が寄せられている。とても嬉しいことと思う。

園校種公私を越えた先生方の同僚性の形成は、小さい人口規模であるからこそ、可能となったようにも思う。それならば、大都市においても、区や町単位での研修を進めていくことで可能であろうといった示唆も、舞鶴の経験から得られた。市の教育大綱同様に「0歳から15歳までの切れ目のない一貫した教育の充実」を前提として、舞鶴市で作成した「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」は、どこかの学識経験者等によって与えられたものではなく、地域が一体となって作成したものである。作成にあたっては、公私立保育所・幼稚園、小中学校長、PTA、民生児童委員、子育て関係団体、子育てサークルの各代表、公募市民による「幼児教育ビジョン策定懇話会」に加えて、公私立各幼稚園、公私立保育所から各1名、小学校8名、中学校4名の全39名からなる「作業部会」が実際に多くの議論を経て、市の次世代育成への夢をはせた。舞鶴市では、首長の理解、そして、行政の理解も大変深い。広報誌において10ページにもわたり、保育を特集していただくこともかなった。

集大成として2019年2月16日土曜日に開催された、「乳幼児教育ビジョン推進事業の乳幼児教育フォーラム」は、環太平洋乳幼児教育学会日本支部の2019年の研究会と共催という形で開催していただいた。市長の挨拶からは、その乳幼児教育への造詣の深さを感じ、支援を約束されたその言葉に勇気を得た。舞鶴市では2019年春に乳幼児教育センターが開設されるが、今後の発展をますます期待したい。

## 鳴門教育大学大学院 教授 木下 光二

### 改訂の趣旨とこれからの教育

#### 新しい局面

新しい学習指導要領等の改訂において幼児期から児童期はもとより、中学校や高等学校まで共通する3つの資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）の育成や教育課程の連続性などが求められています。その際、幼児期の遊びの中の学びを児童期の教科等の学びにつなげることが鍵となりますが、遊びの中の学びを捉えることはそれほど簡単なことではありません。幼児期の遊びの中の学びを言語化し、明確化したり可視化したりして伝えることが必要となります。今回の改訂で出された“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿”は1つの手掛かりとなり、舞鶴市が作成された接続カリキュラムや連携実践集も有意義なものとなるでしょう。

#### 何をつなげれば？

幼児期から児童期に何をつなげればよいかを考えることがあります。つなげるのかつながらぬのか、子どもの発達や成長を考える際、行きつ戻りつするものの、児童期につながらないものは何一つないと思います。幼小の間にあるとされる段差や壁、溝などは、これまでの組織やシステムがつくってきたものなのでしょう。研修会や研究会の場で何をつなげればよいかを尋ねてみると、「心情」「自主性」「思いやり」「人間関係」「個性」「協同性」「基本的な生活習慣」「コミュニケーション力」等、様々な答えが返ってきます。いずれも大切なことばかりです。その際、私はいつも、「遊び込むこと」と答えるようにしています。いわゆる、対象に自ら働きかけ、試行錯誤をしながら夢中になって遊ぶ、没頭して遊ぶ、時間を忘れて遊べる幼児は、児童期での教科の学習にも主体的に関わることができると思うのです。幼児期に砂場で夢中になって遊んだり、草花や虫に豊かに関わったりなど、遊びを多様に展開できる幼児は、児童期になって生活科や理科の学習にすっと移れるでしょう。絵本や童話などが好きで物語や空想の世界で想像やイメージを広げたり、相手の気持ちに寄りそって話したりできる幼児は、自然と国語の学習に入れるでしょう。また、積み木などのものを、分けたり、並べたり、数えたり、比べたり、積み上げたりするのが得意な幼児や、数量や図形に興味を示し、買い物ごっこや折り紙などで時間を忘れて遊べる幼児は、算数の学習に滑らかに移行できるでしょう。

#### 連携から接続へ

つなげるためには、保幼小が共に歩み寄り同じ速さで歩くこと、いわゆる教師間の連携や子ども間の交流活動、カリキュラムの連続が求められます。それはそのまま改訂のキーワードであるカリキュラム・マネジメントであり、両者の生き生きとした活動は、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）となります。それはこれまで舞鶴市が長年にわたって取り組まれてきた歩みそのものだと思います。これまで、舞鶴市の幼児教育や連携教育に関わらせてもらい、私自身もたくさんのことを学ばせてもらいました。舞鶴市がこれまで積み上げてこられたことを生かし、新しい時代の新しい教育を創ってもらえたらと思います。

## 兵庫教育大学大学院 教授 溝邊 和成

### 舞鶴カリキュラム015への期待

まずは、策定会議にかかわってこられた皆様に心より感謝申し上げます。暗中模索の中からのスタートでありながら、常に子どもの事実に目を向け、カリキュラムの形を考えていこうとされる姿に私の心は動かされました。またその姿から教育者としての原点を感じることができました。本当にお疲れさまでした。

そして、出来上がった「カリキュラム015（以下、015）」。一つ一つに熱い思いとこだわりがふれることができる逸品に仕上がっており、わずかなサポートしかできなかった私としても大変うれしく思います。だからこそでしょうか、現場でどのように読みこなし、活用すればよいのか、この4月からのことが少し気かりになっております。「015」のように実践をベースとしたカリキュラム開発は、他の先生にも理解されてこそ開発の意味があり、活用されてこそカリキュラムの役割が全うされると思っているからです。

では、そのために、今後どのようにしていくことがよいのでしょうか。

もともと、作成しようとしたカリキュラムに「子どもが自らの学び・育ちを知り、自らの責任のもと、自らを高めることができる」といった生涯学習社会の中で生き抜く資質能力の育成を求めているのではないのでしょうか。とすれば、忘れてはならないのは、子どもの自立した育ち／自律した学びをより豊かに保障する実践カリキュラムでなくてはならないことです。詰めていくと、「015」は、教え手のガイドラインと同時に、子ども一人一人のカリキュラム・マップであるという扱いが浮上し、活用のための重要なポイントになるように思います。

子ども自身がつくるカリキュラムであるためには、子どもの成長・発達に寄り添うより柔軟な実施が求められるのかもしれませんが、1クラス1枚のマップで事足りるようにすることから離れる必要があるかもしれません。「015」自体を大もととして扱い、子ども自身の個別のマップを用意する方法も考えられます。

加えて妄想的、希望的意見を進めていくと、まず「015」をアプローチ・シート（A）としてとらえ、活動の決め出しや方向性を示す際の予定図のように扱ってみてはどうでしょうか。あるいは、フロー・チャート（F）として学びの時期や順序性を確認する活用の仕方もよいでしょう。さらに、アセスメントノート（A）として、それぞれの振り返り場面の手引き書にしていくと効果的かもしれません。

教師にとっては、AFAいずれの場合においても、自由な書き込み式であることを意識し、実際に行った改良や改善策、あるいは反省点を綴ったカリキュラム活用の完成版を作成することが肝要ではないかと考えます。現場での「015」改変版の横行を楽しみにしています。

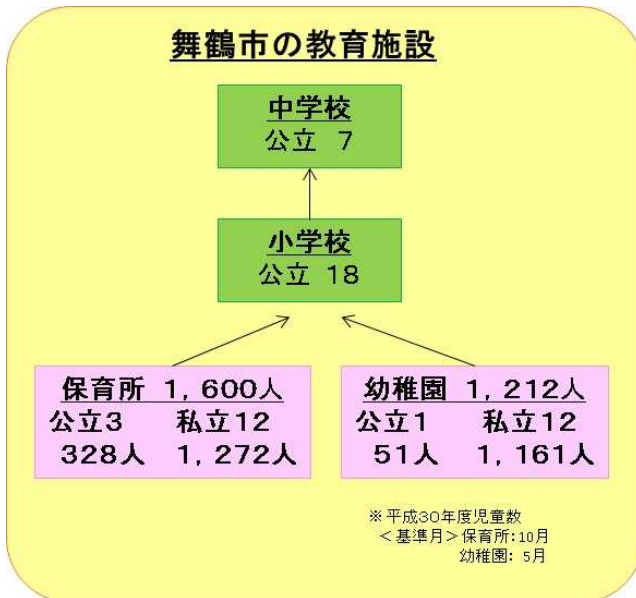
# 乳幼児教育の推進体制に関する調査報告書

## 舞鶴市の現状

(4月1日時点)

	平成17年度	平成30年度	差
人口	90,198人	82,949人	△7,249人
乳幼児数	5,366人	4,046人	△1,320人
児童数(小学校)	5,460人	4,365人	△1,095人
生徒数(中学校)	2,590人	2,196人	△394人

人口減、少子化が進んできている現状がある。



本市には、保育所・幼稚園共に私立園が多く、小・中学校は、公立しかない。

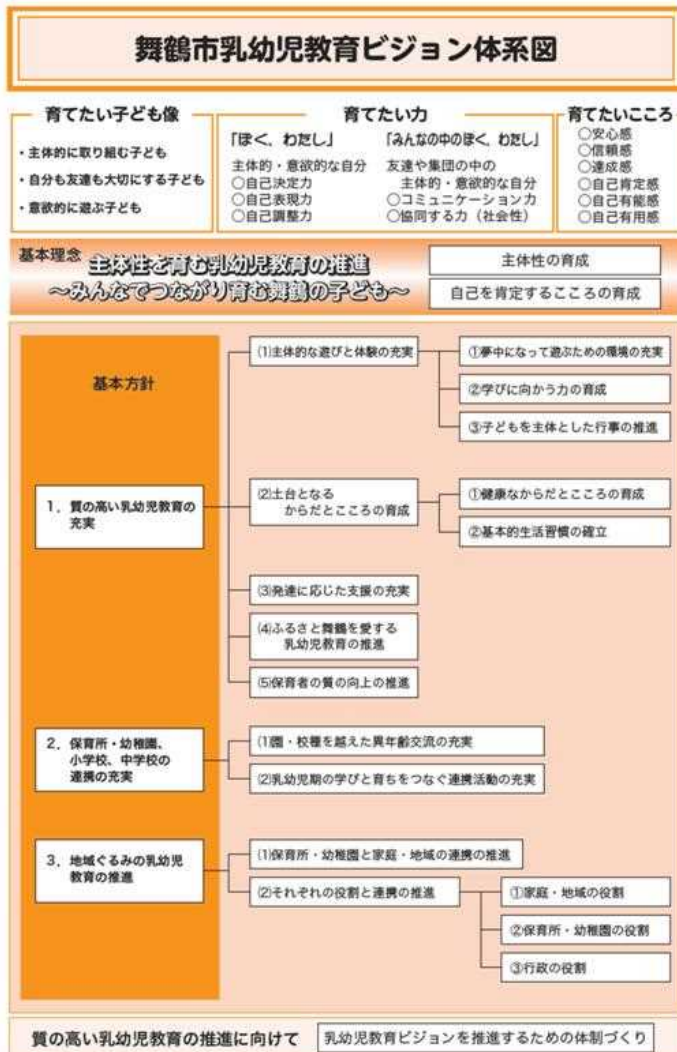
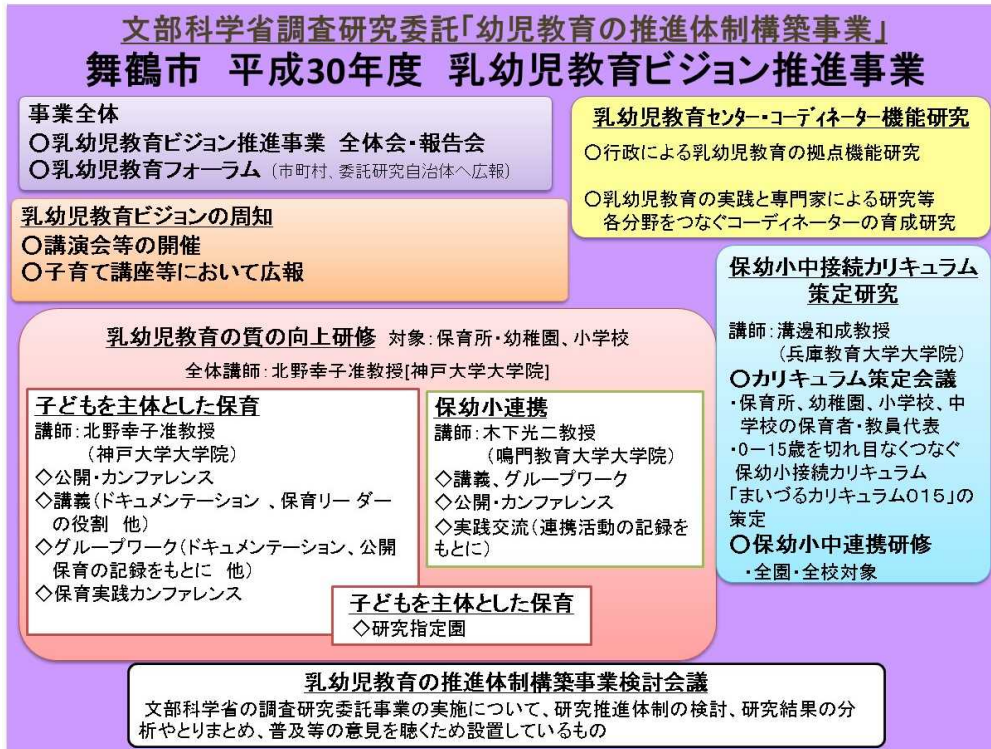
2019年4月に公立幼稚園(1園)と公立保育所(1所)を機能統合し、公立幼保連携型認定こども園として、また、私立保育園のうち5園6施設(1施設は分園)が幼保連携型認定こども園に移行する。

## 乳幼児教育ビジョン推進事業

### 1 事業の目的

舞鶴市乳幼児教育ビジョンについて、市民、地域や関係団体への周知・普及に努めるとともに、ビジョンに基づいた乳幼児教育の質の向上へ向けた研修や関係機関との連携の充実を図る。また文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の採択(平成28年～30年度)を受け、事業を通して、乳幼児教育の質の向上へ向けた推進体制構築のための調査研究を行う。

## 2 概要 体制





舞鶴市乳幼児教育ビジョンにもとづき、「乳幼児教育ビジョンの周知」「乳幼児教育の質の向上研修」「保幼小接続カリキュラム策定研究」「乳幼児教育フォーラム」等の事業を実施し、事業を通して、その推進体制や効果的な研修方法等について調査研究を行った。

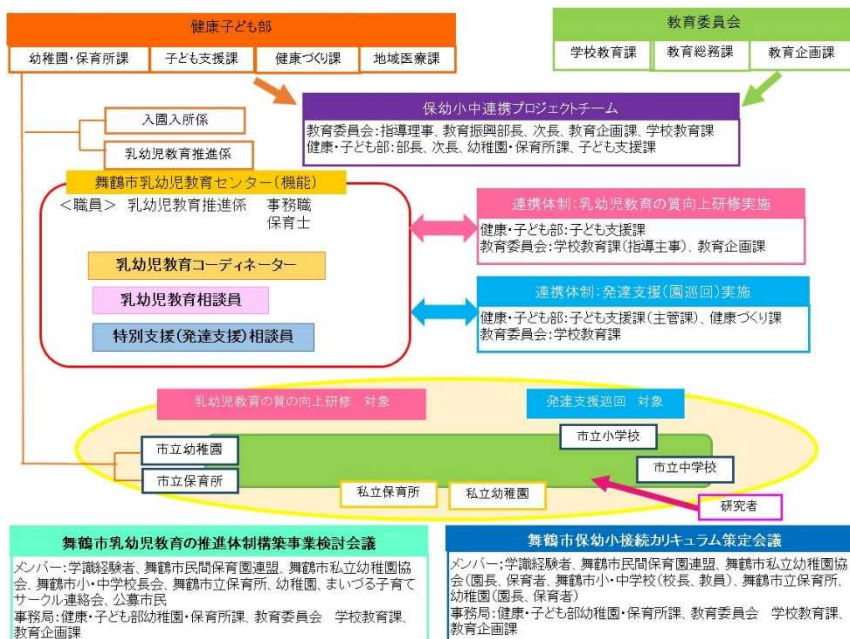
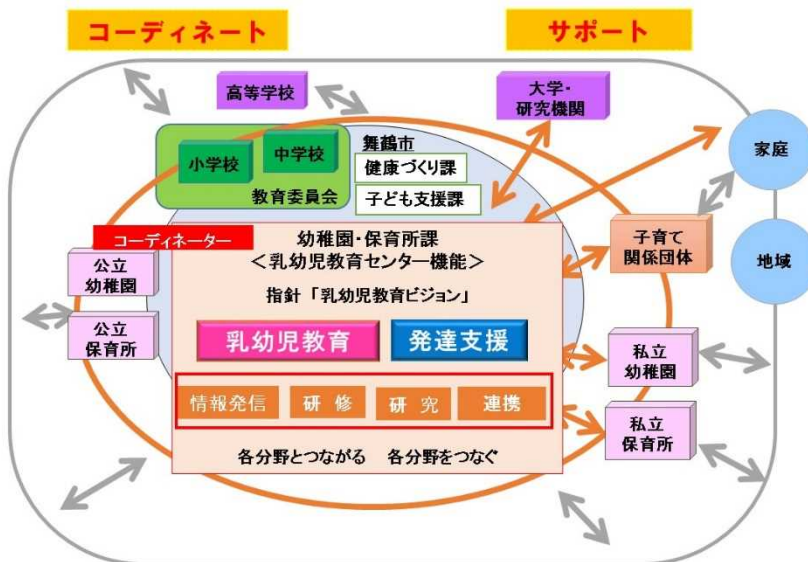
## 調査研究

### 1 乳幼児教育センター

幼稚園・保育所課乳幼児教育推進係に乳幼児教育センターの機能を置き、乳幼児教育ビジョンにもとづき、『乳幼児教育』『発達支援』の分野において、「情報発信」「研究」「研修」「連携」に関する事業を、同係の公立保育士2名(29年度は1名)と事務担当者1名、乳幼児教育コーディネーター1名、相談員2名(非常勤)と共に企画・運営した。

30年度より、発達支援に関する園巡回や研修等の事業を、子ども支援課から当課に移管し、新たに公立保育士1名を加え、乳幼児教育センターの31年度設置に向けて準備を進めてきた。また、保幼小連携、保幼小中接続カリキュラム研究等については教育委員会と連携して事業を進めた。

### 舞鶴市が「乳幼児教育センター」の機能を有し、各分野をつなぐ乳幼児教育コーディネーターを配置する



## 【乳幼児教育】

大学研究者の指導を受けながら、「子どもを主体とした保育」「保幼小連携」「可視化・記録：ドキュメンテーション」等について、「公開保育・授業」を中心に公私・園校種を越えて共に学ぶ「乳幼児教育の質の向上研修」を引き続き実施した。研究指定園や効果的な研修方法についても公私の園と共に研究を進めてきた。また、「保幼小中接続カリキュラム～まいづるカリキュラム015～」の策定に取り組んだ。

## 【発達支援】

園・校への巡回と発達支援に関する研修を実施した。また、就園前の支援の必要な子と保護者の支援として集団生活育みルームを実施し、就園先へ支援方法等を引き継ぐ役割を担った。就園後にも支援の必要な子(特に、コミュニケーション、社会性等に課題のある子)と保護者への支援として、小集団でコミュニケーション、社会性を育む場を設置し、在園先に引き継いでいく役割を担った。

## 情報発信

### ◎乳幼児教育ビジョンの周知（保護者・地域への情報発信）

乳幼児教育の質の向上に向けた園校の取り組みや乳幼児教育ビジョンの内容の理解を深めるため、講演会を開催し、情報発信を行った。また、民生児童委員(主任児童委員)研修会や子育て支援基幹センター事業「学びのひろば」に出向き、乳幼児教育ビジョンの周知・啓発を図った。

### ◎研修ニュースレター(保幼小中の保育者・教員へ情報発信)

研修等での学びを可視化し、研修ニュースレターとして作成するとともに、保育所・幼稚園、小・中学校へ配布した。

## 研究・研修・連携

### ◎乳幼児教育の質の向上研修（研修、保幼小中の連携、研究者との連携、研修方法の研究）

「子どもを主体とした保育(プロジェクト型保育)」「保幼小連携」「可視化・記録(ドキュメンテーション)」の3つテーマにもとづいて、大学の研究者と連携し、保育所・幼稚園、小・中学校の保育者・教員が共に学ぶ公開保育・授業、講義、グループワーク、カンファレンス等の研修を実施した。

### ◎保幼小接続カリキュラム 策定研究（研究、保幼小中の連携、関係機関との連携、研究者との連携）

舞鶴市教育振興大綱の基本理念である「0歳から 15 歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を実現するべく、0歳から 15 歳までを見通したカリキュラム「保幼小中接続カリキュラム～まいづるカリキュラム015～」を策定した(平成31年2月)。

カリキュラムは、0歳から15歳までの事例を中心として、「乳幼児教育ビジョン」と「小中一貫教育」を「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」でつなげる内容とした。また、保幼小連携をさらに充実させるための連携活動年間計画や指導要録の様式や活用方法等についても記載した。

## 情報発信・研修・連携

### ◎全体会、乳幼児教育フォーラム(報告会含む)～市民や各自治体・関係機関への情報発信、研修、保幼小中の連携～

乳幼児教育フォーラム(平成31年2月16日開催)は、環太平洋乳幼児教育学会日本支部と共催で、乳幼児教育センター開設記念と事業全体を総括する報告会を兼ねて実施した。その前日には特別企画として、市内3園の公開保育と、保幼小中連携研修として「保幼小中接続カリキュラム～まいづるカリキュラム015～」を開催し、講演と事業全体の報告会、シンポジウム、ドキュメンテーションの展示等を企画・実施した。対象者も市内だけでなく、近隣府縣市町関係機関、文部科学省同事業受託自治体に案内し、参加を呼びかけた。



## コーディネーター、サポート

### ◎園・校訪問・・・訪問一覧 参照

乳幼児教育コーディネーター及び相談員が、保育所・幼稚園・小学校の公開等の支援、サポートを実施する。

- 公開保育・授業を行う保育所・幼稚園・小学校へ講師からのアドバイスの伝達、園内研修等において指導案の作成の助言、事前勉強会、事後の振り返りの実施等のバックアップ
- 保育リーダーへの園内研修等の研修方法についての助言、サポートを実施
- 発達支援に関する園・校を巡回

### ◎就園、就学先との連携

就園前の支援の必要な子と保護者の支援として集団生活を育む場を設置・運営し、就園先へ支援方法等を引き継ぐ役割を担った。就園後にも社会性やコミュニケーションに支援の必要な子と保護者への支援として、小集団で社会性やコミュニケーション力を育む場を設置・運営し、就学先に引き継いでいく役割を担った。

## 研究

### ◎乳幼児教育センター・コーディネーター機能研究（研究）

乳幼児教育の質の向上へ向けた推進体制構築のための調査研究として乳幼児教育センター・コーディネーターの機能・役割について研究を進めた。

- 行政による乳幼児教育の拠点機能(センター、コーディネーター)の研究
- 研修方法、研修システム、指導案等の研究
- 各分野をつなぐコーディネーターの育成研究

## 2 乳幼児教育コーディネーター、相談員

これまでの取り組みの中で構築した公私、園・校種を越えた連携体制を活用し、保育所・幼稚園等の研修や家庭・地域・学校との接続をサポートするなど、相互の連携・調整等のコーディネータ的な役割を担う「乳幼児教育コーディネーター(＝アドバイザー)」を1名配置した。

また、子どもの発達の観点から保育所・幼稚園への巡回・助言や、家庭への発信等を行う「相談員」(保育所長経験者のある乳幼児教育相談員1名及び小学校教諭や特別支援教育の経験者のある特別支援教育相談員1名)を配置し、乳幼児教育コーディネーターの補佐もしながら、事業を実施した。新たな乳幼児教育コーディネーターを育成する観点から、担当課に配属となった公立保育士(2名)も事業の企画・運営に関わった。

<配置状況> 3名

- 乳幼児教育コーディネーター:1名(常勤職員)  
公立幼稚園副園長兼市教育委員会幼児教育担当指導主事(元公立保育所保育士)
- 乳幼児教育相談員:1名(非常勤職員)  
元公立保育所長・元市保育所所管課長
- 特別支援教育相談員:1名(非常勤職員)  
元小学校教諭・元特別支援教育コーディネーター、子ども発達支援施設巡回相談員

## 3 幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制について～乳幼児教育の質の向上研修～

### (1) 子ども主体とした保育(プロジェクト型保育)

#### ①対象:保育所・幼稚園

※乳幼児教育の理解を促し、乳幼児期の育ちと学びを小学校以降の学びにつなげるため、小学校・中学校にも研修への参加を呼びかけている。

## ②実施方法

### ■公開保育

公開園の実践者：各園の公開保育の研修テーマ、視点にもとづいた保育を研究・実践する。

他園からの参加者：保育所・幼稚園の公開保育を見学、子どもの姿や視点に基づいた記録をとる。

### ■グループワーク

公開園の実践者と他園からの参加者が公開保育の視点にもとづいてグループに分かれて協議する。

### ■カンファレンス

公開園の実践者と他園からの参加者が一緒になって大学の研究者より指導・助言を受ける。

## ③実施の工夫点

### ■公開園

#### ◎事前勉強会の実施

公開保育を実施する3園が事前に集まり、乳幼児教育コーディネーターのサポートのもと、「子どもを主体とした保育」「指導案」「ドキュメンテーション」等について学び合う。

#### ◎公開保育のテーマ・視点の設定

公開保育はその日だけのイベントではないことから、何を目指し、何を学ぶかを事前に明確し、より学びの多いものにしていくため以下の工夫を行った。

乳幼児教育コーディネーターが園を訪問し、その園の特徴や現状や課題について保育者と一緒に検討し、どのような保育を目指していくかテーマを決める。このテーマに向かって保育を実践し、公開保育では何を見てほしいのか、何を学びたいのかを視点として示す。

#### ◎乳幼児教育コーディネーターによるサポート

乳幼児教育コーディネーターによる園内研修(指導案書き方、ドキュメンテーションなど)のサポートや園の保育を見学し、環境等へのアドバイスをを行う。

### ■参加者

参加者が公開保育を見る視点を定めるため、以下の工夫を行った。

◎公開保育の視点を各自で選び、その視点に沿って保育を見とり、子どもの姿等を記入シートに記録するとともに、グループワークの中で報告し、検討し合う。

◎公開保育テーマ・視点や指導案を前日に配布し、予め目を通してから参加する。

### ■保育を語るグループワーク

◎大学の研究者の助言だけに頼るのではなく、保育を実践した保育者自身もグループワークに入るにより参加者とのより具体的な議論や意見交換が期待できる。また、保育を語り合う文化の熟成を目指す。

## ④実施の成果

※詳細は、乳幼児教育フォーラムⅡ部 事業報告会「子どもを主体とした保育」に記載

### ■公開保育実施園の振り返りより

3園の私立保育園が公開し、うち2園は公開保育そのものが初めてであった。保育者自身が、悩み迷いながら保育を模索している状態であったが、どの園も、保育者自身の「保育を変えたい」という思いが強く、学びたいという意欲が感じられる公開保育となった。

#### ○A園の振り返りから

A園では、他園の公開保育に参加する中で、自園の子ども達が自分で考えるというよりも指示待ちであることに気が付き、どうすれば、子どもが自分で考え行動できるのか、主体性が育つのかといったことから保育者間で話し合いが始まり、まず、環境から見直すことになった。初めは、保育者が考えた環境だったこともあり、継続しなかったり、玩具の取り合いになったりすることがあったが、その内、子どもの好きな遊びや興味・関心が見えるようになってくると、それに合わせた環境を整えることができるようにな

り、子ども自身にも、遊び込む、友達同士で関わるといった姿が見られるようになってくる。保育者自身も保育が楽しくなり、もっと、遊びが楽しくなり、継続していくよう工夫するようになってくる。遊びが、行事で途切れないようにならないか、遊びと行事をつなげていきたいといった意見も出てくるようになった。

こうしたよい循環が保育を変えていく原動力となっていくのではないかと。

どの園にも共通することは、環境の見直しと保育者間の話し合いである。乳幼児教育が環境を通した教育であることから当然のことではあるが、環境を変えることで子どもの姿が変わり、保育者が変わっていく。保育者が主体的に保育を考えること、保育者間で共有する(話し合う)ことが、公開保育をきっかけに各園で広がりにつつある。

この他にも、他園の公開保育にもっと参加して学びたいといった意見やドキュメンテーションやクラスだより等の記録は学んできたが、指導案はあまり意識できていなかったため、記録をいかした計画(指導案)についても学んでいきたい、といった意見も聞かれた。また、環境を見直す時に第三者からの視点も重要であり、公開保育前に乳幼児教育コーディネーターが訪問し、保育や環境等に対してアドバイスをしたことが有効であったといった意見も聞かれた。

## ■参加者アンケートより

### A 園

#### 【公開保育研究テーマ】

保育者自身が他園の公開保育等に参加する中で、園の特色も活かしながら、遊びやその時間、環境、主体性を育む保育について学びたいと考えている。子ども達が自分で考え、行動したり、遊びに夢中になったりするためにはどのような環境が必要なのか、どのような関わりをしていくとよいのか、試行錯誤している。

#### 【公開保育の視点】

主体性を育むための時間、環境、遊びや保育者の関わりについて

- ・乳児クラスでは、保育者の思いや愛情が詰まった手づくり玩具がたくさんあり、とても勉強になりました。コーナーが一つひとつ区切られていることで自分のしたい遊びをじっくり集中して遊んでいる姿が印象的でした。
- ・子どもたちの活動を見て、戸外の出入りがとても自由で、製作したものをすぐに試すことができるため、何回でも挑戦することができ、子どもたちも上手いかなくてもすぐに新しい方法を考えて、上手いいくまで挑んでいたと思います。
- ・それぞれが好きな遊びを楽しんでおり、「何、作ってるの?」と聞くと、「〇〇! !」とどの子どもも目的を持って遊んでいた。製作コーナーでは、ストロー1つでも細い・太いがあり、たくさんの種類のものが用意してあり、物作りが充実していた。
- ・数回目の公開保育であったが、公開保育のたびに自分の園の保育をふり返り考える機会をいただきます。室内も子どもたちが自分の好きなものを自由に取れる環境になっており、手づくりの玩具もたくさんあり、工夫してあったと勉強になりました。
- ・今、3才児の担任をしているのですが、初めからふり返りはできないかなと決めつけていたのですが、全員でしようと思わず、少人数で遊びごとにしてみようと思います。
- ・同じあそびでも環境の作り方によって子どもたちの遊びが変わってくることを実感させられた。導線を考えて作りすぎてもよくない。保育者の手が加わりすぎると、子どもたちの“考える力”が育まれない。子どもたちが大好きな「先生」と共に遊びを進めていくことで、より遊びが深まることを改めて実感した。
- ・環境をたくさん考えておられると感じました。どろんこや色水あそびなどに保育士がもっと関わり、子どもの気づきを深めたり、広げたりできたらもっと面白くなるんじゃないかと思いました。

## B 園

### 公開保育 研究テーマ

子ども自らが興味を持ち、発見したり、深めたり、考えたり、好きな遊びを思う存分楽しめる保育に変えていくためには何をどうすればいいか、迷いながら、環境や保育者の関わりについて園内で話し合ってきました。環境を変えることで子どもの遊びが変化し、その中で保育者はどう子どもに関わるのか、保育者同士で共有しながら試行錯誤しています。

### 公開保育の視点

子どもの興味・関心をもとにした環境構成  
遊びを広げていくための保育者の関わり

- ・環境がとても大切で、素材一つ、玩具一つで子どもの遊びがさらに広がったり、展開していくんだなと感じました。一斉保育から子どもの主体性を育めるような環境や遊びに少しずつ変えていこうとされているのが伝わってきました。
- ・公開保育では、自分の園とは違った環境づくりを見ることができ、こういう環境の仕方もあるのだというも学ぶことがあり、保育者の声かけ、子どもへの関わり方も勉強になります。取り入れたいことも多く、園に持ち帰って職員と共有できています。
- ・各クラス全く違う活動をされていたので、合同で活動した時、どう遊びが変化・発展していくのかなと興味がありました。
- ・他園を見させていただくことは、自園のふり返りにもなり、次へのステップになります。主体性は0歳児から大事に子どもに寄り添うことで身につけていくのではないかと思います。

## C 園

### 【公開保育研究のテーマ】

「夢中になって遊び込む」をテーマで日々保育実践している。秋も深まり、子ども達の興味関心、やりたいこと、試したいこと、経験も様々重ねてきている。盛んになってきている自然素材、身近な教材を使つての製作遊び・ごっこ遊び等を保育者が、どう広げたり、繋げて行けば良いかを話し合い、保育の充実に取り組んでいる。本園の環境を通して、子ども達は何に気付き、学びへと繋げているかを考えていきたい。

### 【公開保育の視点】

- ◎環境と子どもの姿
- ◎子ども同士の関係性(関わる姿、言葉など)
- ◎保育者の関わりと子どもの姿

- ・テーマの通り、じっくり遊び込む姿が多く見られた。整った環境の中で(たくさんのコーナーがあり)、子どもたちが自由に好きな遊びが選べるということ。保育士がべったりついていなくても自分たちで考え遊んでいました。
- ・園全体から秋の自然を感じることができました。その季節のものを使っての重さ比べなど、様々な場所ででき、大・小・重さの違いなどが目で見ても分かるような掲示物もあったり、一つひとつが丁寧に扱われているなど、園に持ち帰って伝えたいことがたくさんありました。また、ふり返りも3才、4、5歳とも話を聞く姿勢も見についていたり、保育者一人ひとりの子どもへの関わりがゆったりとした雰囲気ですテキだなどと思いました。
- ・環境構成を主に見させていただきました。まず、素材の種類にびっくりしました。子どもには危険なものと思ってしまいがちなものも置いてあったけど、それを子どもたちがケガしたりすることなく使っていることにも驚きました。どのクラスを見ても、戸外に出ても季節を感じることでできる環境もとても素晴らしかったです。

- ・自分の園の保育とは違う視点で（保育者の）子どもの姿を捉え、この成長をどう見とっているのかとてもよい勉強になりました。先生方の関わり方、寛容さが子どもの姿として感じられるものが多かったです。
- ・子どもたちに対して指示ではなく、語りかけたり、子どもの気付きとなるヒントになるような声かけ、とっても勉強になりました。もっともっといろいろな園を見て、関わりや環境を見てみたいと思いました。
- ・すごく印象に残ったのが、時間の流れを忘れるくらい、ゆったりと時間が過ぎていたことです。子どもたちと先生方の間で見えない安心感があるんだなと思いました。すごく自然が感じられ、環境構成からもすごく温かみも感じられることができました。
- ・たくさん取り入れたい部分があったんですが、全部取り入れるのは難しいと思うので、少しずつでもいい部分を真似していきたいです。保育士の言葉がけや関わり方など改めて考えるきっかけにもなったので、自分の関わりを見直していきたいです。
- ・何といても環境づくり。子どもが主体的にそして夢中に活動できる環境設定について改めて考えていきたいです。見守り、そっと援助できる、子どもの主体性を大切にできる教師を目指していきたいです。
- ・手作り玩具もいろいろなものが用意されており、子どもたち一人ひとりが自分の遊びをじっくり楽しんでいる様子が印象的でした。ゆったりとした保育の実現の背景には、園全体で共通意識を持たれたり、一体感、連携のとれた保育体制がとても大切だと感じたので、まずはクラス内でも共通の意識や関わりができるように心がけていききたいと思います。

#### ■グループワーク・カンファレンス

公開保育の研究テーマ・視点にもとづいて保育を見てもらえるよう、参加者自身が視点を選び、記録し、グループワークの中で報告するようにした。

C園では、「環境と子どもの姿」「子ども同士の関係性(関わる姿、言葉など)」「保育者の関わりと子どもの姿」の3つの視点から1つを選んで記録するとともに、グループワークの中で共有し、視点について協議した。

参加者アンケートからは、

- ・「3つの視点」からグループを分け、グループごとの発表もあったので、わかりやすかった。自分が保育を見させてもらう中でも、1つに絞っていたので見やすかった。
- ・環境や子どもとの関わり、保育者との関わりに分かれて集中して見る事ができたので、深く話し合うことができた。
- ・グループワークの視点が定まっていることで、見る方もポイントが絞れた。
- ・視点を絞ってのグループワーク、学びが深まった。

といった意見が聞かれ、視点を明確化し、参加者自身が視点を選び、それにもとづいて保育を見とり、語り、深めることができるといった効果が得られた。

- ・少人数でのグループワークに園の保育者も入っていただいたので、わかりやすく、質問もたくさんできてよかった。
- ・語り合うことで（自分の表現力、説明力も含め）より一層具体的な学びにつながると思った。

といった意見も聞かれ、4～5人の少人数のグループに公開園の保育者も加わり、互いに保育を語り合う中で同僚性を高めるといった効果もあった。

その他の公開保育グループワークでも、

- ・見てきた環境や遊びを一緒に振り返ることで、自分の学びに追加され、より深い学びが得られる。
- ・自分が見ていた視点と他の先生が見る視点は違うので、共有できてよかった。逆に自分が気付かないところも知れてよかった。

といった意見が聞かれた。

大学研究者によるカンファレンスでは、

- ・ 公開園への（大学研究者からの）アドバイスは、自園でもいかせることが多かった。参考にしたい。
- ・ カンファレンスの内容は、すぐにでも実践したいこと、園に持ち帰りたいこと尽くしだった。

という意見が聞かれ、他園のカンファレンスやグループワークからも、自分の保育にいかすことが可能であり、互いに保育の質を高め合う効果があると言える。

以上のように、昨年度課題となっていた公開保育の研究テーマ、視点の明確化とグループワークでの活用については、今年度改善し、効果が得られたと言える。

## ■ 研究指定園

年間を通じて、指導者（元神戸市公立幼稚園長、元養成校教員、現幼児教育アドバイザー）が園に訪問し、保育や環境、記録等への指導・助言を行うことができた。公開保育は、その日の保育だけになりがちであるが、研究指定園では、約2～3か月ごとに訪問し、その時々保育に対して指導・助言を受けることが可能になり、年間を通じて保育の見直しをしながら、継続していくことにより、効果が期待される。

研究指定園の保育者の振り返りでは、保育内容や子どもや保育者の変化について以下のような意見が聞かれた。

- ・ 子どもが自ら好きな遊びを見つけられる環境が常に保育室にあり、子どもが十分に遊び込める空間と時間の保障をすることで遊びがつながるようになった。
- ・ 自分の思いが言えないが多かったが、子どもを主体とした保育に取り組む中で「これがしたい」という思いが出てきて自己発揮する姿が見られるようになった。
- ・ 「これはMくんが得意やで」と友達のことを認める姿も見られ、それぞれの子どもの得意なことや苦手なことを共有することができるようになった。
- ・ 子どもが今何に興味や関心を持っているかを見てどんな学びがあるかを考え、子どもたちと一緒に環境を工夫していく中で遊びが展開していくようになった。遊びが展開していけばいくほど子ども達一人一人の良さが本当によく見えてきた。

## 参加者アンケートより

### 1 公開保育

- ・ 子どもたちがやりたいことを選んで楽しんで遊ぶ姿が見られ、子どもの主体性や環境について先生たちが子どもに寄り添いやっておられることが感じられた。
- ・ 環境設定、コーナー設定、ドキュメンテーションの貼り方・見せ方などなど、勉強になりました。
- ・ 主に5歳児を見せてもらい、子どもたち自身が遊びを見つけ、集中して遊び込める、すべての遊びが繋がっている、次へと発展できる、友だち同士助け合い協力できることはさすが年長児だと思いました。自分の園との違いや、様々な工夫を見て、参考になりました。
- ・ 豊富な素材があり、それを使って作ったり、すぐに試せる環境がとても良かったと感じました。遊びと遊びのつながりが期待できるような環境の配置だったと感じました。
- ・ 遊びのコーナーや作ったものを片付けずに残しておくことで次につながり、より遊びも発展していくことが分かった。先生方の声かけ、働きかけもその子に合わせてされていた。
- ・ どんな子どもに育ててほしいのか！という保育者のねらいと、子どもたちの興味・関心を融合させながら進めていく大切さを改めて感じました。「子どもの言葉の一つひとつ引っかかりを持つ」ということや「子どもが主語になる言葉をたくさん使う」ということがすごく印象に残ったので、すぐに実践してみたいです。
- ・ 自園では廃材は廊下、自然物などは外に置いてあり、作ろうと思った時に作りにくかったり、途中で廊下や外に出て取りに出なければならないので、部屋に常に置いておくことも考えていきたいと思った。一つの素材をたくさんではなく、種類をたくさん用意するからこそ遊びが広がっていくと感じるので、環境をもう一度見直したいと思う。



・私の園でも7月に公開保育をさせていただき、たくさん勉強させていただきましたが、やはり行事に追われなかなか上手くいかないなあ・・・というタイミングでの今回の参加でした。たくさん刺激をもらい、また頑張ろう！という気持ちがありました。

## (2) 保幼小連携

①対象：保育所・幼稚園(主として5歳児担任)、小学校(主として1年生担任)、中学校

### ②実施方法

#### ■連携協力園・校の指定

昨年度に引き続き、小学校区ごとに連携協力園・校を指定し、生活科を中心とした連携活動を実施する。

#### ■保幼小連携研修：3回連続講座

第1回 講義・グループワーク「連携活動指導案作成」

第2回 モデル園・校による「公開授業・保育・カンファレンス」

第3回 講義・グループワーク「実践交流会」

～協力園・校での連携活動の実践の記録をもとに交流～

対象を5歳児担任、1年生担任にしぼり、「計画・実践(公開)・評価」の3回連続研修とする。

### ③実施の成果

連携協力園・校における連携活動が定着してきたことから、単なる交流から、連携活動を通じて何を学ぶかという視点にたって充実を図っていくことが求められている。昨年同様、計画、実践(公開保育・授業)を実施するとともに、最終の研修では、それぞれの連携協力園・校の実践記録を持ちより、保幼小の保育者・教員がグループに分かれ、実践記録をもとに連携活動の中の育ちや学びを見とる研修を実施した。

その中で、参加者アンケートから

#### 保育所・幼稚園の保育者

- ・小学校の先生の視点で話が聞けたのでよかった。今回の交流内容が、自園でもできそうな内容であり、園でも同じ取り組みをしても、声かけや気付きの違いで新しい発見や取り組み方ができることが分かった。
- ・いろんな実践内容があると思った。交流会というとかまえてしまってガチガチとしっかり設定しなければとってしまうが、全てを決めてしまわずに自然な形で子どもたちが関われる時間を作ることが大事なのだなと思った。
- ・保育者からの視点、小学校教諭からの視点で様々な意見が聞かれてよかった。どんな活動、経験、思考力、話し合いが就学してからの育ちにつながっているのか、具体的によく感じられた。
- ・数えるのに思わず夢中になるというような必然性のある学び、遊びという視点で活動を考えていきたい。無理なくできることから思い切ってやっていけたらと思う。
- ・子どもたちが“調べたくなる”興味を持つような環境設定をしていきたいと思った。

#### 小学校教員

- ・“指導書に沿って・・・”と活動内容を制限しがちだが、もっと子どもたちののびやかな考えにいろいろ任せてもいいのかな・・・と思った。私たち教師は、失敗しないようにと手立てを考えがちだが、生活科(連携)において今後、子どもたちの思いを1番に設定していこうと思った。
- ・記録シートの活動について、意見交流や全体交流をする中で、保育園や幼稚園の先生方がどのような見方や考え方をされているのかを知ることができ、とても参考になった。
- ・子どもたち同士が学び合うことと同時に指導者同士も学び合うことになり、とても有意義であった。
- ・保育園・幼稚園の実践を聞き、気付きを大切にされているところは見習いたいと思った。(サツマイモが

不作→どうして？を児童の気付きから広げさせる)

- ・生活科の学習は”教える”ではなく、子どもたちと自然をつなげ、気付く環境を作っていくことだと感じた。本当の連携は、可能な限り小学校と幼稚園（保育所）が関わっていくこと、そして幼児期と児童期をつなげることだと思った。
- ・つい、1年生の目線だけで子どもたちを見てしまうので、幼児期からの育ちを受け止めて身につけている力、これからつける力を考えて、活動を工夫したいと思った。
- ・他の教員にも学んだことを伝えたい。1、2年の担任だから、幼稚園とつながるのではない。みんながつながっていると伝えたい。
- ・「導入はシンプルに」「学びに必然性を」という先生の言葉をこれからの授業に、活動にいかしたい。

といった記述があり、これから連携活動を充実させていく機会となった。

また、連携活動は生活科だけでなく、その他の教科（音楽、国語、算数等）でも連携できること、1年生や低学年から学校全体へ広がり、つながることができることなど、広く捉えていく新たな視点についても学ぶ機会となった。

### (3) 可視化・記録：ドキュメンテーション研修

#### ①対象：保育所・幼稚園

#### ②実施方法

##### ■グループワーク

事例やドキュメンテーションの中の保育について、ドキュメンテーション（保育）を見とる視点となるワークシートをもとに、グループで協議する。

##### ■講義

講義の中で、実際に大学の研究者による事例やドキュメンテーションの書き方、見とり方を聞く。

#### ③実施の工夫点

##### ■対象や内容を経験年数に応じて実施

- ・新任またはドキュメンテーションを初めて書く保育者を対象にし、事例をもとにドキュメンテーションをグループごとに作成する。（フレッシュ向け）
- ・保育リーダー（特に役職、経験年数等の条件はつけず、園の判断に任せる）を対象とし、ワークシートを使ってドキュメンテーションを検討するグループワークを体験しながら、園内研修として活用する内容を学ぶ。（保育リーダー向け）

##### ◎フレッシュ向け

グループごとに同じ事例をもとにドキュメンテーションを書き、できあがったドキュメンテーションを互いに見合い、大学研究者による指導・助言を受けた。

参加者アンケートからは、

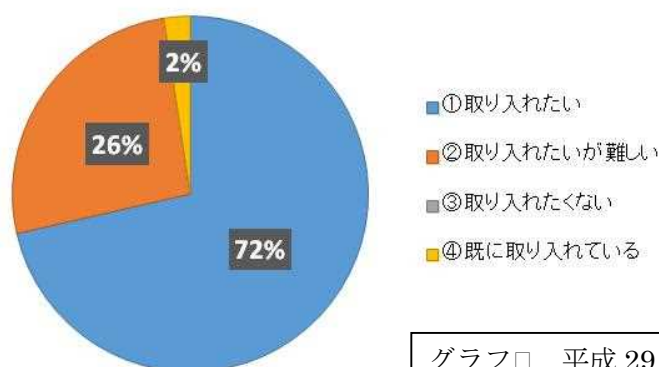
- ・とても楽しかった。自分だけでなく、他の人の意見もとてもよい刺激になった。
- ・難しかったが、書いたものをもっとこうしたらよかったなどを教えていただき、よい勉強となった。
- ・何をどうまとめるのが難しかったが、自分がどこをピックアップして書きたかったのが明確になると感じた。
- ・思っていることを文章にしたり、表現したりするのは難しいなと思った。10の姿や5領域をしっかりと意識して、何を伝えたいかを考えて書いていきたい。
- ・初めてドキュメンテーションを書いたので、まずどのように手をつけるべきか、最初の1歩がなかなか踏み出せなかったが、グループで書いたので進めることができた。
- ・言葉のまとめ方や伝え方、見やすさを考えるとすごく難しかったが、いろんな発想が出てきておもしろいと思った。

といった意見が聞かれ、難しいけれど、一步踏み出すきっかけにはなっていることがうかがえる。グループでドキュメンテーションを書くという協同作業が、互いの距離を縮め、同僚性を高めることにもつながっている。昨年の課題にもなっていたが、同じグループで年間を通じて数回学び合えると互いの刺激となり、さらに同僚性が高まるのではないかと。

#### ◎保育リーダー向け

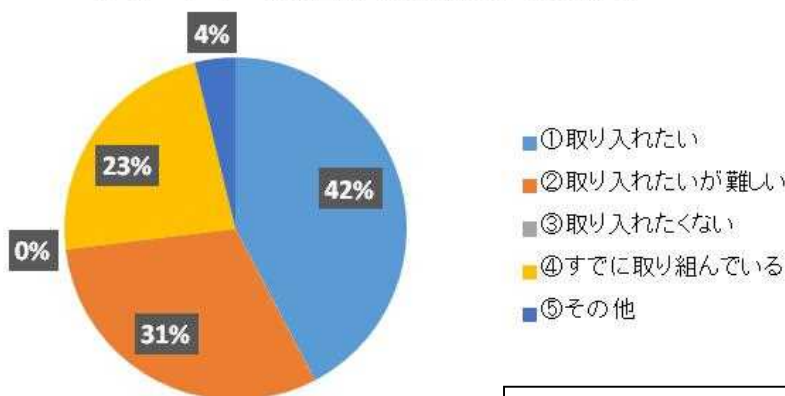
昨年度から引き続き、ワークシートを使ってドキュメンテーションを検討するグループワークを体験しながら、園内研修として活用する内容を学ぶ「保育リーダー向け」研修を実施した。参加者アンケートから、研修で経験した「グループワークを園内研修として取り入れたいか」という質問に対しては、昨年度は、72%が①取り入れたいと回答しているが、今年度は42%に留まっている。しかし、今年度は④すでに取り組んでいる園が23%と昨年度の2%から大幅に増加していることから、園内研修が充実しつつあることがうかがえる。

ドキュメンテーション研修(保育リーダー向け)  
～グループワークを園内研修に取り入れたいか～



グラフ□ 平成29年度 参加者アンケートより

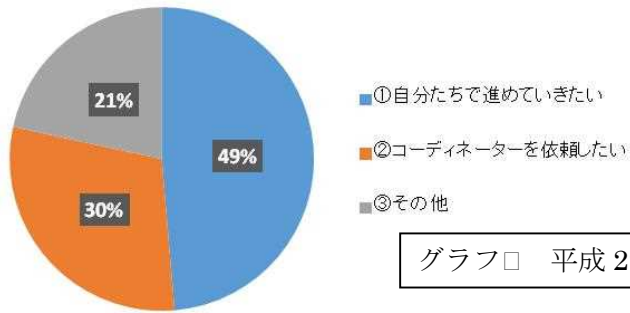
グループワークを園内研修に取り入れたいか？



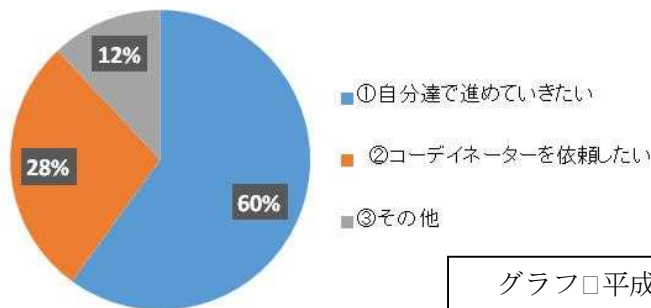
グラフ□ 平成30年度 参加者アンケートより

自園で「園内研修をどのような形で進めていきたいか」という質問に対して、①自分達で進めたいといった回答が昨年度より約10%増えていることから、上記と同様のことが言える。しかし、②乳幼児教育コーディネーターを依頼したいといった回答は、昨年度も今年度もほぼ変化が無くこれは、昨年度課題となっていた乳幼児教育コーディネーターによる園訪問等のサポートができていないことが一因ではないかと思われる。今年度は、参加者アンケートの回答に依頼したいと回答した園へ、1園(私立幼稚園)ではあったが、園内研修のサポートをすることができた。その他、1園(私立保育園)ではあるが、園訪問をし、保育や環境等へ助言することもできた。

ドキュメンテーション研修(保育リーダー向け)  
～園内研修をどのような形で進めたいか～



自園で園内研修を取り組む際にどのような形で進めたいか？



(4) 保幼小接続カリキュラム研究 保幼小中連携

①対象: 保育所・幼稚園、小学校、中学校

②実施方法

■保幼小接続カリキュラム策定会議～「保幼小中接続カリキュラム～まいつるカリキュラム015～」の策定

市長部局と教育委員会の職員で構成する「舞鶴市保幼小中連携推進プロジェクトチーム」を軸として、保幼小中の連携の充実と強化を図り、カリキュラム策定に向けて取り組んだ。

■保幼小中連携研修

③ 実施の工夫、変更

■保幼小中接続カリキュラム策定会議

本市の教育振興大綱の基本理念である「0歳から 15 歳までの切れ目ない質の高い教育の充実」を実現するべく、0歳から 15 歳までを見通したカリキュラム「保幼小中接続カリキュラム～まいつるカリキュラム015～」を策定した(平成31年2月)。0歳から15歳までの事例を中心として、「乳幼児教育ビジョン」と「小中一貫教育」を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」でつなげる内容となった。また、保幼小連携をさらに充実させるための連携活動年間計画や指導要録の様式や活用方法等についても記載した。

■保幼小中連携研修

乳幼児教育フォーラムの特別企画として開催すると共に「保幼小中接続カリキュラム～まいつるカリキュラム015～」の策定を受け、保育所・幼稚園、小・中学校の保育者・教員への周知を図った。

※詳細は、乳幼児教育フォーラム報告に記載

## (5) 乳幼児教育フォーラム

※詳細は、乳幼児教育フォーラム報告に記載

## (6) 保護者アンケート調査

期間：平成30年12月10日～21日

対象：さくら保育園 3～5歳児クラス保護者（平成28年度公開保育実施）  
うみべのもり保育所 3～5歳児クラス保護者（平成28、29年度公開保育実施）  
中舞鶴幼稚園 3～5歳児クラス保護者（平成29年度公開保育実施）

目的：公開保育実施園の保育や子どもの変化等を保護者へのアンケートを通じて調査する

回収率：さくら保育所（34%） うみべのもり保育所（25%） 中舞鶴幼稚園（56%）

回収方法：園から保護者あてに配布、園において回収

内容：各園の特徴的な取り組みに合わせた質問とする

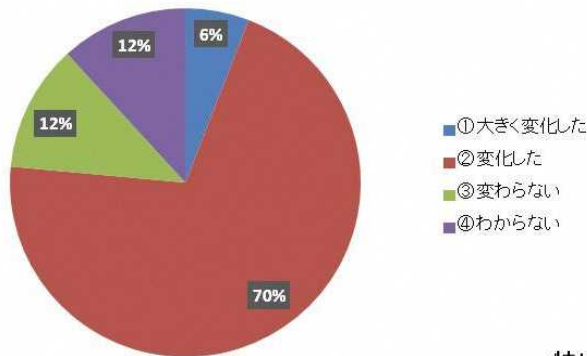
- ・さくら保育園、中舞鶴幼稚園⇒保育全体の変化について
- ・うみべのもり保育所⇒ドキュメンテーションや保育について

※アンケートの回収率は、保育所と幼稚園では差があると言えるが、仕事をしている保護者が時間を割いて協力していただけたことを加味すると、数字だけでは判断できない部分もあると考える。

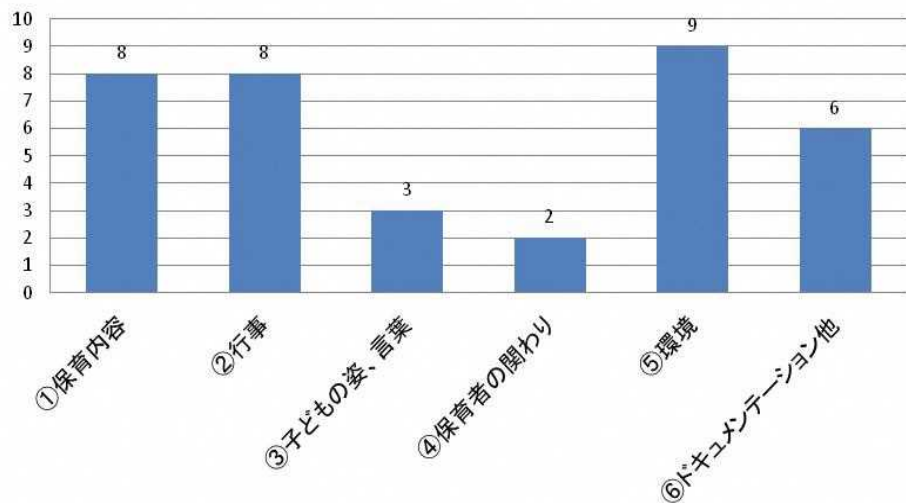
### ①さくら保育園

#### ■保育の変化について

以前と比べて変化したと感ずるか



特に変化したと感じたところはどこですか？



その中でも特に変化したと感ずる内容(自由記述)

- ・保育室では遊びごとに区切られた空間があり、自分たちで考えて遊びに取り組めるようにしてあるのがよいと思う。
- ・子どもたちが自分で考えて遊ぶ環境づくりがされていると思うし、子どもたちもいろんなアイデアを出し合って遊んでいると思う。
- ・前は、お遊戯や歌などが中心となった参観日であったが、今は普段の園での様子を中心にした参観日となっている。
- ・保育園でどんな生活をしているのか、どんな遊びをしているのか、どんな成長をしているかがよく分かるようになった。

以上のことから、①大きく変化した、②変化した、を合わせると約8割が変化を感じたと回答している。また、変化したと感ずる内容を選択する問(複数回答可)では、⑤環境や②行事といった保護者にとっても見えやすい部分の回答が多かった。しかし、①保育内容といった回答も多く、日々の保育は保護者には見えにくい部分であるがゆえにドキュメンテーション等による可視化の効果が出ているとも言える。

■園の保育、子どもの姿やエピソードについて(自由記述より抜粋)

- ・掲示物を見ていると、以前に比べると子どもたちの遊びが発展していくのに合わせて、先生方が働きかけてくださっているのがよく分かる。子どもたちの活動を見守ってもらっている感じがしている。
- ・子どもたちの意見をよく聞いて、何をしたいか、どうしたらよいかなど先生方中心ではなく子ども中心とした保育をして下さり、子どもも考える力や協力する力がついたと思う。
- ・春～秋にかけて、虫が大好きな我が子は、見つけて捕まえるたびに「～くん、先生に見せたい！」との思いからよく園に持っていく中で、いろんな子の知識を日々得て、世話することを覚えて大事にしていたことが嬉しく、虫と共に少しずつ成長しているな一と感じた。
- ・年長児は子どもの意見を1番に取り入れつつ、行事や作品に取り組んでくれ、先生方と子どもがアイデアを出しあって何でもチャレンジしてくれるため、子どもたちも意欲的な様子がよく伝わってくる。
- ・「〇〇くんと作った」「一緒に〇〇した」等、いろいろ話してくれるようになってきている！最近では、作品づくり(工作)をよくしているのか、家にある作品づくりに使えそうな空き箱などがあると、「これ、保育園に持っていったいい？」と自ら言うことが多い。

以上のことから、公開保育後も、保護者の理解を得ながら、保育者中心ではなく、子どもを中心とした保育へと変革させてきていることがうかがえる。特に、行事については、保護者の理解が不可欠であり、可視化による保護者への発信が大きな役割を果たしていると言える。何より、子どもが変わってきたということが、保護者の理解につながっていると言える。

(参考:さくら保育園 保護者アンケート調査用紙)

<b>1 お子さんのクラスについてお書きください</b>
( ) 歳児 ( ) 組 ( ) 歳児 ( ) 組
<b>2 園全体について</b>
A Iの進化による社会の変化に伴い、10年、20年後には、今ある職業の多くが失われると言われてい る中で、未来を担う子ども達に必要な力とは何でしょうか?これからは、与えられたことだけをするのでは なく、自ら課題を見つけ、多様な人と関わりながら解決していく力、新たな仕組みやアイデアを創り出す力 などが求められています。 このような力を育てるために、保育所・幼稚園では、自ら考え、判断し、行動したり、集中し、粘り強く 取り組んだり、工夫したりすることを大切に、子どもが主体となって遊びや生活を創り出せるよう環境を



整え、保育者は関わっています。保育室や廊下、園庭は、自ら遊びたくなるような子どもの興味・関心のあ  
る環境にしたり、保育者が子どもの思いや言葉を受け止めたり、共感したり、褒めたり、認めたり、指示だ  
けでなく考えさせるような言葉をかけたりするなど意識しながら保育を実践しています。

以前（平成 28 年以前）と比べて現在変化したと感じるところはありますか？

- ①大きく変化した ② 変化した ③ 変わらない ④ わからない



①、②と答えられた方にお聞きます。

特に変化したと感じたところを選んで○印をつけてください（複数回答可）

- ① 保育内容（遊びや生活など）  
② 行事（運動会、発表会など）  
③ 子どもの姿・言葉（園であったことをよく話すようになった、など）  
④ 先生の関わり  
⑤ 環境（保育室や園庭、玩具など）  
⑥ おたより、クラスだより ドキュメンテーションなどの情報発信

※ドキュメンテーションとは…

子どもはただ遊んでいるだけと思われがちですが、様々な遊びや体験を通じて、モノ（素材や道具、  
玩具など）や人（保育者・友達）と関わりながら学んでいます。遊びの中の学びの姿をわかりやす  
く、見えるように写真や文で紹介したものがドキュメンテーションです。クラスだよりなどのおた  
よりもそのひとつです。

- ⑦ その他（ ）

その中でも特に変化したと感じる内容を簡単にお書きください。

### 3 園の保育について

与えられた遊びや体験よりも、子ども自らが「やりたい、やってみたい」と意欲的、主体的に取り組む方が  
学びは深まります。子どもの興味・関心をもとに素材や道具、本などを準備し、考えたり、工夫したり、試行  
錯誤したりする機会を大切にしています。

保育について感じておられることがありましたら、お書きください。

### 4 お子さんについて

お子さんの姿や言葉で、園での日常や行事などのエピソードがあればお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

## ②うみべのもり保育所

### ■ドキュメンテーションについて(自由記述より抜粋)

- ・なかなか見ることができないのですが、ものや人とどのように関わって遊んでいるのか見させていただいています。子どもたちのつぶやき、それに対して保育士の方の言葉かけのやりとりも楽しみにしています。最後までいきつかなくても子どもたちの？やなぜ？が続いていく様子がよく分かりますし、どうなったのかな？と我が子に聞くこともできます。これからも楽しみにしています。
- ・家庭での親対子だけでは見えない子どもの成長がよく分かって嬉しいです。心や体の成長段階の説明や、先生方の声かけなども書いておられるので、自分の育児をふり返ってとても参考になります。他の保護者の方とも、(ドキュメンテーションをよく読まれる方とは)ドキュメンテーションの内容で会話をすることがよくあり、改めて子どもたちの成長にすごいな～と思います。子どもとの会話の糸口にもなり、その時の様子や思いを教えてくださいまして、もうめっちゃ可愛いです。

### ■保育について(自由記述より抜粋)

- ・毎回、面白いことをしているなあと感心します。1人の子が発したことをクラスで共有して発展させてたり、関連を持たせて違うことをしてみたりしていて、子どもも先生も1人ひとりをよく見ているなあと感じます。でも、1人よがりにならず、全体で共有し、同じテーマでも個々に気付くこと、気になることが違って、それを突き詰めていたり、それもまたみんなで共有したりと、まとまって活動してるのがよく分かります。個々で楽しみ、みんなでも楽しんでるんだなあと。
- ・今までのように、大人(先生)から指示出しはしないと聞いていましたが、日々の子どもの発信や行動を上手く拾って、子ども主体で活動してるんだなあと実感します。出しゃばらず見守る、でも必要なところはさりげにサポート、子どもの邪魔にならないように接するのは理想で、1番難しいと思いますが、先生方はつかず離れず接してるのがありがたいです。親も見習いたいです。やはり自分の子には手厳しくなってしまうですね。

### ■子どもの姿やエピソード(自由記述より抜粋)

- ・与えられたものでなく、自分たちで作ったり、考えたりしたもので遊ぶことは、これからも続けてほしいです。
- ・今日はママにプレゼントがあると行って絵を描いてくれたり、保育所で作ったものを“宝物”と言ったり、保育所での日常が本人にとって“大切なもの”を感じられる経験ができているのだと思う。
- ・いつも遊びに目的があるように話しています。「今日は～するんや。○日にはっぴょうがあるから」や「今、○○作っとるんやで。あと、作ったら完成なんや。頑張らんと」など、充実した毎日を過ごさせていたでいることに感謝します。

保育の可視化のひとつでもあるドキュメンテーションが、子どもとの会話、保護者同士の会話の糸口にもなり、保育者の子どもへの言葉かけややりとり、発達に関する記述が子育ての参考にもなっていることがうかがえる。また、1人の子の興味・関心から、クラス全体で共有し、広がっていく保育や、保育者の指示ではなく、子どもを主体にしながらも、保育者の教育的意図やサポートを知ってもらい機会になっており、保育への理解につながっていることがうかがえる。

保育を可視化することは、保護者に子育てや保育への理解を促す、親子だけでなく、保護者同士も結びつける効果もあると言える。

A Iの進化による社会の変化に伴い、10年、20年後には、今ある職業の多くが失われると言われて  
いる中で、未来を担う子ども達に必要な力とは何でしょうか?これからは、与えられたことだけをするの  
ではなく、自ら課題を見つけ、多様な人と関わりながら解決していく力、新たな仕組みやアイデアを創り  
出す力などが求められています。

このような力を育てるために、保育所・幼稚園では、自ら考え、判断し、行動したり、集中し、粘り強  
く取り組んだり、工夫したりすることを大切に、子どもが主体となって遊びや生活を創り出せるよう環  
境を整え、保育者は関わっています。保育室や廊下、園庭は、自ら遊びたくなるような子どもの興味・関  
心のある環境にしたり、保育者が子どもの思いや言葉を受け止めたり、共感したり、褒めたり、認めたり、  
指示だけでなく考えさせるような言葉をかけたりするなど意識しながら保育を実践しています。

### 1 お子さんのクラスについてお書きください

( )歳児 ( )組 ( )歳児 ( )組

### 2 おたより(クラスだよりなど) ドキュメンテーションについて

子どもはただ遊んでいるだけと思われがちですが、様々な遊びや体験を通じて、モノ(素材や道具、玩  
具など)や人(保育者・友達)と関わりながら学んでいます。遊びの中の学びの姿を「幼児期の終わりま  
でに育てほしい10の姿」でわかりやすく示し、見えるように写真や文で紹介したものがドキュメンテ  
ーションです。クラスだよりなどのおたよりもそのひとつです。

保育所のドキュメンテーションについて感じておられることがありましたら、お書き下さい。

### 3 保育について

与えられた遊びや体験よりも、子ども自らが「やりたい、やってみたい」と意欲的、主体的に取り組む  
方が学びは深まります。子どもの興味・関心をもとに素材や道具、本などを準備し、考えたり、工夫した  
り、試行錯誤したりする機会を大切にしています。

保育について感じておられることがありましたら、お書きください。

### 4 お子さんについて

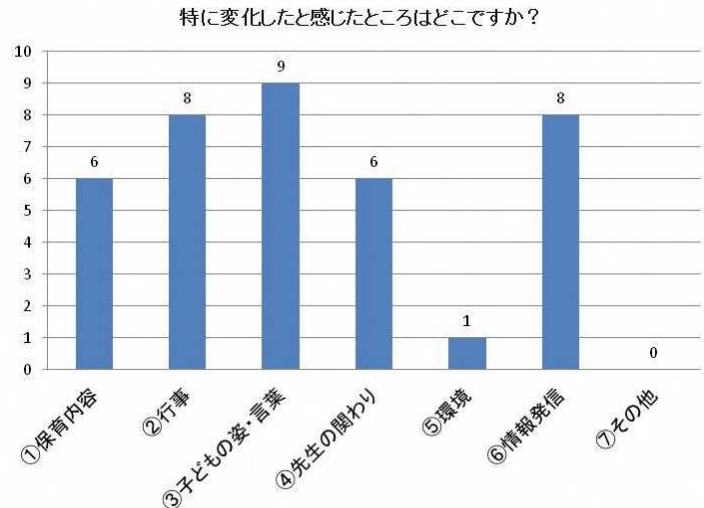
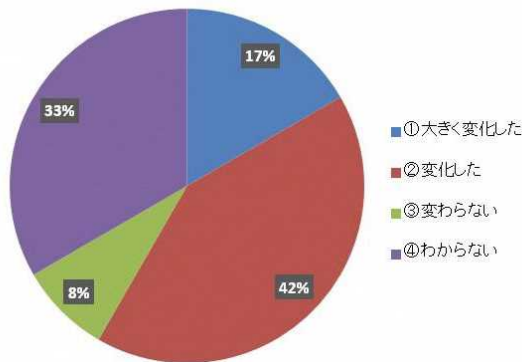
お子さんの姿や言葉で、保育所での日常や行事などのエピソードがあればお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

### ③中舞鶴幼稚園

#### ■保育の変化について

以前と比べて変化したか



その中でも特に変化したと感じる内容(自由記述)

- ・ 運動会、作品展など園での行事や普段の生活で、子どもたちの興味のあることをテーマとして取り組んでいただき、子どもたちみんなが楽しんでそのテーマに取り組んでいると感じました。
- ・ 元々、すごく自由に遊びであったり、子どもたち同士も関わらせてもらっていて、変化としては子どもからたくさん話をしてくれるようになったと思います。おたよりでも、子どもたちで考え〇〇〇をして・・・であったり、今日は自分たちで作った〇〇〇で・・・と自分たちで考えたことを先生方にサポートしていただきながら作り上げていく姿が以前よりも多いかな？と思いました。
- ・ 5歳離れた兄弟がいて、その時とは大きく変化したように感じます。以前は先生に言われたことをやるだけといった感じが多かったように感じましたが、今は、子どもたちの自主性を大切にいただき、「考え、行動する」という力がついていっているのではないかと感じます。上の子が足りなかった力(小学生になりとても課題だと思った力)を幼児期につけていただけていることにとっても感心を持っており、ありがたく思っています。これからも社会の一員として、自信を持って社会へ出ていける子どもたちが育ってくれることを切に願っております。
- ・ 発表会→日々の生活や遊びの中で子どもたち主体で作り上げていた。(セリフや衣装など)
- ・ おたよりの中で、具体的に園での活動内容が詳細に書かれていること。
- ・ 作品展では、園全体で1つのテーマに向けて子どもたちで自由に、また楽しんで、工夫して、自分の力で作り上げた作品が素晴らしかったです。

以上のことから、①大きく変化した、②変化した、を合わせると約7割が変化を感じたと回答している。また、変化したと感じる内容を選択する問い(複数回答可)では、②行事や③子どもの変化・姿といった回答が多く、自由記述の中でも同様の記述が見られた。私立幼稚園は、園の独自性や特色をいかした教育が特徴とも言える中で、行事を変えていくことそのものが難しい中、保護者の理解を得ながら、子どもの主体性を尊重した内容へと変革していることがうかがえる。また、⑥情報発信も回答が多いことから、保育の可視化としてクラスだよりを活用し、保護者へ発信している効果も感じられた。⑤環境については、園バス利用者が多いこともあり、保護者が見る機会が少なかったことも影響しているのではないかと考えられる。

## ■保育について

- ・幼稚園での作業の延長で、家からも更に工夫し、自分なりに素材や見た目を考え、もの作りに取り組んでいます。ものが変化していく様子を観察することもとても大事にされ、[砂に水を入れるとどうなる→1日おくとどうなる？さらに次の日は？]など言葉で教えるのではなく、自ら体験し、五感で感じることで心に強く残っていくのだと思います。
- ・以前は「まず先生がお手本を見せ、やらせる」という保育が多かったように思いますが、最近では「まず、自分たちで考えさせてみて、できなかつたらアドバイス」というふうに変化しているように感じます。以前から工作はたくさん持って帰ってきていましたが（うちの子はそういうことが好きだったので）、さらにその頻度が増えているように感じます。楽しみながら、既製品にはない温かみのある玩具で遊ぶことに大賛成です。
- ・夏にあった“七夕キラキラ発表会”では、子どもたちで話し合っって作ったストーリー。年長さんでそんなことができるのかとびっくりしました。それぞれの考えや思いを出して、話がまとまるって素晴らしい！！子どもの発想力、好奇心、可能性は無限なんだなあと考えさせられました。
- ・知識教育が多く園で取り入れられるようになり、少しはいろいろ勉強させておかないと小学校で差が出たり、自信がつかないかなと正直不安な気持ちもありましたが、今はなくなりました。幼稚園の時くらいは、思い切り遊んで、楽しい思い出をたくさん作ってほしいです。

## ■ドキュメンテーション(おたより)について

- ・発表会や運動会など、保護者が見に行ける行事だけでなく、園での何気ない日常のこともおたよりとして作成して下さるので、今子どもたちがどんなことに取り組んでいるのか、何が好きなのか、よく分かるのでとても嬉しいです。また、大きな行事の時には、子ども自身がどのような気持ちでいるのか、といった抱負が書いてあったり、子どもたちからの一言が書いてあったりと、先生と子どものやりとりを知ることができたり、子どもの行事に対する捉え方が分かるよう書いてくださって、とてもありがたいです。いつもおたよりを読むのがとても楽しみです。
- ・子どもたちの活動の様子や遊びの様子が写真付きでお知らせしてくれたり、この遊びから違う遊びに変わっていく様子など、子どもたちが自分たちで考え、視野が広がっていく様子などが具体的に文にして載せてくれていると感じています。また子育てに関わる親のためになる情報も載せてくれているところがなかなか自分で調べてまで見ることもないので、すごく参考になります。
- ・ただ「最近の様子」を載せるのではなく、「この行動は〇歳児ならではの」や「社会性を学んでいる」など、理論のようなことを一緒に書いてくださるので「なるほど！」と子どもの様子を理解しやすくなります。毎回、とても楽しみに拝見させていただいています。
- ・写真や会話の内容まで書いてくれているので、様子が分かりやすい。その目的をしっかりと書いてくれるので、行事のことも分かりやすい。

以上のことから、公開保育後も、様々な体験を通して、自分で考え、試す、工夫する、話し合うなどの幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を意識した保育へと変革し、その様子をおたよりとして可視化し、保護者に発信している効果が記述内容からうかがえる。特に、行事や保育のねらいや目標を保護者にも明確に示すことは、理解を深めるためにも有効と言える。

## 1 お子さんのクラスについてお書きください

( ) 歳児 ( ) 組 ( ) 歳児 ( ) 組

## 2 園全体について

AIの進化による社会の変化に伴い、10年、20年後には、今ある職業の多くが失われると言われている中で、未来を担う子ども達に必要な力とは何でしょうか？これからは、与えられたことだけをするのではなく、自ら課題を見つけ、多様な人と関わりながら解決していく力、新たな仕組みやアイデアを創り出す力などが求められています。

このような力を育てるために、保育所・幼稚園では、自ら考え、判断し、行動したり、集中し、粘り強く取り組んだり、工夫したりすることを大切にし、子どもが主体となって遊びや生活を創り出せるよう環境を整え、保育者は関わっています。保育室や廊下、園庭は、自ら遊びたくなるような子どもの興味・関心のある環境にしたり、保育者が子どもの思いや言葉を受け止めたり、共感したり、褒めたり、認めたり、指示だけでなく考えさせるような言葉をかけたりするなど意識しながら保育を実践しています。

以前(平成29年以前)と比べて現在変化したと感じるところはありますか？

- ①大きく変化した ② 変化した ③ 変わらない ④ わからない



②、②と答えられた方にお聞きします。

特に変化したと感じたところを選んで○印をつけてください(複数回答可)

- ⑧ 保育内容(遊びや生活など)  
⑨ 行事(運動会、発表会など)  
⑩ 子どもの姿・言葉(園であったことをよく話すようになった、など)  
④ 先生の関わり  
⑪ 環境(保育室や園庭、玩具など)  
⑫ おたより(クラスだより 他)ドキュメンテーションなどの情報発信  
⑦ その他( )

その中でも特に変化したと感じる内容を簡単にお書きください。

## 3 園の保育について

与えられた遊びや体験よりも、子ども自らが「やりたい、やってみたい」と意欲的、主体的に取り組む方が学びは深まります。子どもの興味・関心をもとに素材や道具、本などを準備し、考えたり、工夫したり、試行錯誤したりする機会を大切にしています。

保育について感じておられることがありましたら、お書きください。



#### 4 おたより（クラスだよりなど） ドキュメンテーションについて

子どもはただ遊んでいるだけと思われがちですが、様々な遊びや体験を通じて、モノ（素材や道具、玩具など）や人（保育者・友達）と関わりながら学んでいます。遊びの中の学びの姿をわかりやすく、見えるように写真や文で紹介したものがドキュメンテーションです。クラスだよりなどのおたよりもそのひとつです。

園のドキュメンテーションについて感じておられることがありましたら、お書きください。

#### 5 お子さんについて

お子さんの姿や言葉で、園での日常や行事などのエピソードがあればお書きください。

ご協力ありがとうございました。

以上、3園の保護者アンケート調査から、公開保育をきっかけに保育者中心の保育から、子どもを主体とした保育へと変化した様子が園の保育や子どもの姿などから見られ、さらに、ドキュメンテーション等の可視化を通じて、保護者の理解を得ていることがわかる。保育が変わる、子どもが変わる、保護者も変わる、という循環の要は保育者であり、専門職として公開保育等を通じて学び続けることが保育の質を高めていくことにつながると言える。

#### 4 乳幼児教育センター開設に向けて

『乳幼児教育』の分野では、大学研究者の指導を受けながら、「子どもを主体とした保育」「保幼小連携」等について、「公開保育・授業」を中心に公私・園校種を越えて共に学ぶ「乳幼児教育の質の向上研修」を引き続き実施する（研修）。研究指定園や効果的な研修方法についても公私の園と共に研究を進め、公開保育・授業等で蓄積してきた指導案やドキュメンテーションをセンターで取りまとめ、保育者・教員が自由に閲覧できるなど、日々の保育実践や研修に活用できるようにする（研究・情報発信・サポート）。「保幼小中接続カリキュラム～まいづるカリキュラム015～」の事例研究をさらに進め、事例を追加、更新していく（研究・連携）。

『発達支援』の分野では、園・校への巡回（サポート）と発達支援に関する研修（研修）を実施する。また、就園前の支援の必要な子と保護者の支援として集団生活を育む場（サポート）の設置・運営を進め、就園先へ支援方法等を引き継ぐ役割を担う（連携、コーディネート）。就園後にも社会性やコミュニケーションに支援の必要な子と、保護者への支援として小集団で社会性やコミュニケーション力を育む場（サポート）の設置・運営を進め、就学先に引き継いでいく役割を担う（連携、コーディネート）。

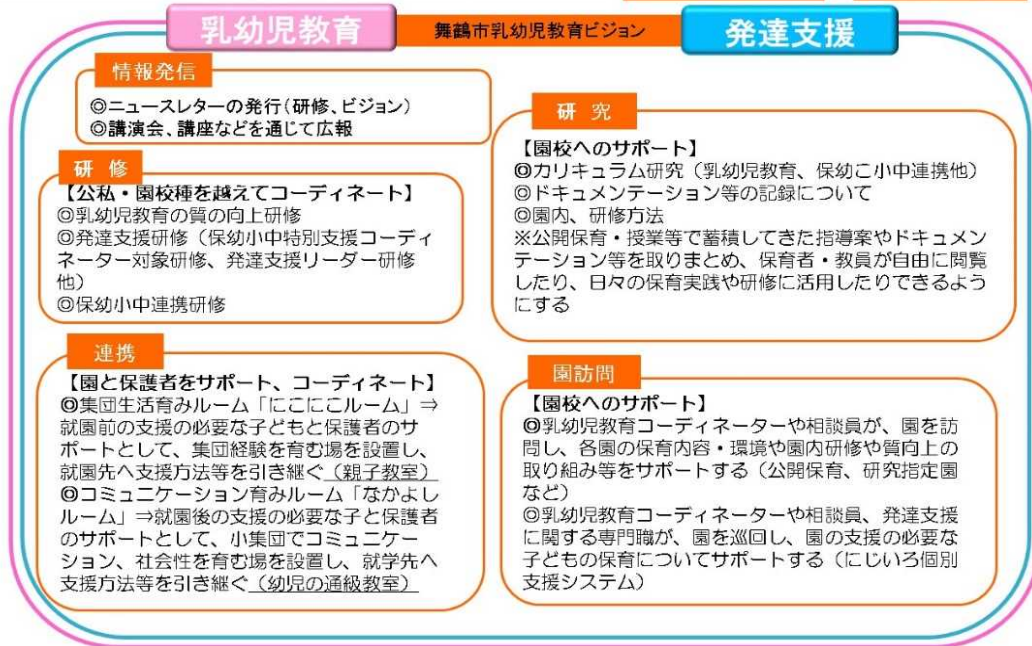
研修内容や乳幼児教育ビジョンを広く周知するために、ニュースレターの発行や報告会を引き続き実施する。

乳幼児教育センターで実施する研修と保育士等キャリアアップ研修、その他法定研修等様々な研修を体系化し、実施していく。また、本市の人材（保育者）育成方針を作成し、それに準じて経験年数に応じた研修等への参加を促していく。

# 舞鶴市乳幼児教育センター事業(案)

コーディネート

サポート



また、保幼小連携の推進、保幼小中接続カリキュラム研究、保幼小中連携研修については、教育委員会の指導主事と連携して事業を実施し、部署間の連携が強化するための体制を構築する。

